# 《日本文学Ａ　日本の古典文学　課題用シート》第十一回

学籍番号：G484282024 氏名：岩﨑莉乃愛

①項目三「浮舟物語の展開」における「浮舟侍女・右近、板挟みとなった姉の悲劇を語る」（３㌻）および補助資料一「『大和物語』第一四七段　生田川」を読み、次の表の形式に従ってまとめましょう。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| その他の結末 | 亡くなった人物 | 女の気持ち | 状況 |  |
| ・親のいさかいの内容  〔　他国の者を自国に葬ることを嫌がった。　　　　　　　　　　　　　　　　〕  ・墓〔女の墓を挟んで二人の男の墓が並んでいる。　　　　　　　　　　　　　　　　〕 | 女  二人の男 | より愛情深い方と結婚しようと考えるが、決めきれなかった。 | 〔　二人の男　　　　　　　　　〕からの求婚を受けていた。求婚者の愛情の程度は、  〔同じくらい（強いもの　）　　　　　　　　　　　　　〕だった。 | 大和物語第一四七段「生田川」 |
| ・古い男  〔国を追いだされた。　　　　　　　　　　　　　　　　　〕  ・姉〔東国人間になった　　　　　　　　　　　　　　　　　〕 | 新しい男（古い男に殺された） | 新しい男のほうに、少し強い想いを寄せていた。 | 〔　二人の男　　　　　　　　　　〕を恋人に持ち、どちらも姉に〔　強い思い　　　　　　　　　〕を寄せていた。 | 右近の姉 |

②『源氏物語』浮舟巻の該当箇所を読んで、Ⓐ～Ⓔのいずれか一つ以上について、あなたの考察および感想を書いてください。

選択した課題番号〔　　D　〕

浮舟が事態を深刻に捉え過ぎた原因の一つには、彼女が周囲の人々の言葉を真に受けて惑わされたことが挙げられる。浮舟物語では、母や尼君、匂宮、薫といった登場人物たちが、各々の立場や感情から浮舟に対して異なる意見や態度を表す。それらを執拗に描き出すことで、物語は登場人物間の力関係や心理の揺らぎを詳しく表現している。一方で、このような多声的な語りの方法は、読者に対して人物の感情の複雑さを理解させる効果がある。けれど、主人公の視点が埋もれがちになるという点もある。浮舟の意思が語られぬまま、他者の声に押し流されていく展開は、そのような語りの構造に支えられている。だがその分、彼女が最終的に俗世を離れる決断する場面には、強い自己意識の芽生えが感じられるのである。

☆右に書ききれなかったこと、課題Ｂの調査報告（途中でも可）、質問、感想などを、自由にお書きください。